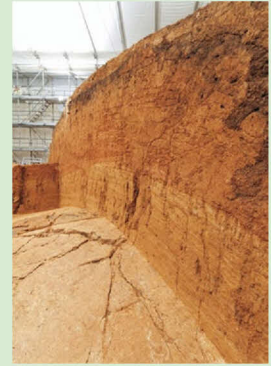


飛鳥資料館 秋期特別展 「高松塚古墳を掘る— 解明された築造方法 —」

壁画の劣化が問題となり、高松塚古墳の石室解体事業がおこなわれてから10年。石室解体事業にともなう発掘調査は、文化庁の委託を受けた奈良文化財研究所が、奈良県立橿原考古学研究所・明日香村教育委員会とともに実施しました。その結果、墳丘や石室の構築に関わる重要な考古学的知見とともに、壁画の保存環境の劣化に関する情報も得られました。

今回の展覧会では、発掘調査によって得られた土層のはぎ取りや地震痕跡の型取り等の資料を展示し、高松塚古墳の築造方法と壁画の保存環境に迫ります。あわせて石室解体に使用した治具等も展示し、奈文研関わった石室解体事業とその後の10年を振り返ります。貴重な国宝高松塚古墳壁画を後世に伝えるために、文化財関係者が総力を挙げて取り組んだ前例のない調査の記録をご覧ください。

(飛鳥資料館 石橋 茂登)



墳丘の土層断面と地震による地割れ

会 期：2017年10月6日(金)～12月3日(日)月曜休館(祝日の場合は翌平日)

11月3日(金祝)は無料入館日

開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

講演会：10月28日(土)13：30～「高松塚古墳の構築技術を解明する」講師：廣瀬 覚 於：飛鳥資料館講堂(事前申込不要)

ギャラリートーク：11月23日(木祝)10：30～、13：30～

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問合せ：☎0744-54-3561(飛鳥資料館)

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>
Eメール jimu@nabunken.go.jp
発行年月 2017年9月